



第22回 日本抗加齢医学会総会
ランチョンセミナー 5

日時 2022年6月17日(金)
12:30 ~ 13:20

会場 第8会場 12階 特別会議場

共催 第22回 日本抗加齢医学会総会
メタジェニックス株式会社

Specialized Pro-resolving Mediators (SPM) による 炎症性疾患の制御

座長 **山田 秀和** 先生

近畿大学アンチエイジングセンター
近畿大学奈良病院皮膚科 教授

演者 **有田 誠** 先生

慶應義塾大学 薬学部
代謝生理化学講座 教授

■ 開催形式：現地開催

■ 参加受付：本セミナーは整理券制です。

▶ 整理券 配布場所：大阪国際会議場 5F ロビー

配布時間：6月17日(金) 8:00 ~ 12:00

演 題 Specialized Pro-resolving Mediators (SPM) による 炎症性疾患の制御

有田 誠 先生

慶應義塾大学 薬学部 代謝生理化学講座 教授



要 旨

炎症反応は外傷や感染に対する重要な生体防御系である。一方で、一旦生じた炎症は適切に収束する必要があり、この制御が破綻すると慢性炎症や組織障害を伴う病態につながる。すなわち、炎症の遷延化および慢性化の分子機構の一つとして、炎症の収束機構の障害が指摘されている。

炎症の収束に関わる細胞やメディエーターを網羅的に特定し、生体が本来兼ね備えている能動的な炎症収束能力について分子レベルで明らかにする研究の過程で見いだされたのが、 $\omega 6$ 系アラキドン酸由来のリポキシシン、 $\omega 3$ 系EPAおよびDHA由来のレゾルビン、プロテクチン、マレシンなどの Specialized Pro-resolving Mediators (SPM) である。

SPMは炎症部位で好中球や血小板、血管内皮細胞、マクロファージなどが相互作用することで時空間的に生成し、特定の細胞および分子メカニズムを介して、炎症の収束、エフェロサイトーシス、バクテリアのクリアランス、創傷治癒などを促進する機能を有する。

これら内因性の炎症収束性物質は、治らない炎症を病態基盤とする様々な難治性疾患に対し、これまでにない全く新しい角度からの予防・治療のシーズとして期待される。

本講演では、SPM研究の背景と現状について概説し、さらにSPMの代謝前駆体でもあるEPAやDHAなど $\omega 3$ 脂肪酸の代謝による炎症・感染症の制御機構について、最近の知見を交えて紹介する。